

# 令和4年度 学校マネジメントシート

学校名 ( 杉の子特別支援学校 )

## 1 目指す姿7

(1) 目指す学校像		一人ひとりの可能性を伸ばし、生きる力を育む学校をめざす。
(2)	育みたい 児童生徒像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自立と社会参加をめざし、主体的に取り組む子ども</li> <li>・自己肯定感や他者を思いやる気持ちを持ち、自他の命を大切にし、人権感覚あふれる子ども</li> </ul>
	ありたい 教職員像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・豊かな人間性と高い人権感覚を有し、いじめや体罰を許さず、学校の課題に情熱をもって粘り強く取り組むことで児童生徒のみならず、地域や保護者からも信頼される教職員</li> <li>・児童生徒の障がいのようにに応じて、就学前から卒業後までの一貫した指導・支援に保護者と連携して主体的に実践できる教職員</li> <li>・他の教職員と協調して学校の抱える様々な課題の解決に向けて、積極的に取り組むと共に地域の各学校・関係機関との信頼関係を構築できる教職員</li> <li>・防災対策や防災教育に積極的に取り組み、子どもたちが安心・安全に過ごせる学校づくりを推進していく教職員</li> <li>・知的障がい児教育並びに肢体不自由児教育に関わる実践研究に真摯に取り組み、児童生徒の成長を保護者と共に喜び合える教職員</li> <li>・コンプライアンス意識を高く持ち、生徒、保護者・地域から信頼される教職員</li> </ul>

## 2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<p>〈児童生徒〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自立と社会参加に向けて、様々な体験的な学習を経験して、卒業後の生活に必要な力や主体性を育ててほしい。</li> <li>・一人ひとりが活かされる仲間づくりを推進してほしい。</li> </ul> <p>〈保護者〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども一人ひとりのニーズに応じた自立と社会参加に向けた教育と進路実現を推進してほしい。</li> <li>・安心・安全な学習環境を維持継続してほしい。</li> </ul> <p>〈地域の学校・関係機関〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域における特別支援教育の充実・推進に向け、センター的機能を発揮してほしい。</li> <li>・鈴鹿病院から通学する生徒の健康維持と学びの保障</li> </ul>	
	(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	<p>連携する相手からの要望・期待</p> <p>〈保護者〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒一人ひとりのニーズに応じた安心・安全な教育</li> </ul> <p>〈地域の学校〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・交流を通しての共生共学に対する理解と推進</li> <li>・地域の特別支援教育のセンター的機能〈地域の関係機関(企業・福祉施設等)〉</li> <li>・情報提供や障がい者理解に向けた支援</li> </ul> <p>〈地域社会〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本校の教育活動の公開と積極的な情報発信</li> </ul> <p>〈鈴鹿病院〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・在籍する生徒の学校生活に関わる情報共有</li> </ul>

<p>(3) 前年度の学校関係者評価等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染対策について、保護者アンケートでも満足度が高いことは評価できるが、さらなる改善につなげていくことが大切である。</li> <li>・保護者アンケートの意見や自由記述欄の声や意見をていねいに聞いて改善することが必要である。</li> <li>・学校間交流や居住地校交流などの取組を通して、さまざまなことを学ばせていただいている。コロナ禍で直接交流が難しい場合は、オンライン交流の内容を充実させていくことが求められる。</li> <li>・学校の評価委員を務めるまでは特別支援学校での取組を知らなかったので、地域への情報発信のあり方を検討することが大切である。</li> </ul>
	<p>教育活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和5年度の知的中学部の石薬師分校への移転を踏まえて、児童生徒がスムーズに新しい環境に慣れるための取組を行う必要がある。</li> <li>・今後もコロナ禍の影響が見込まれることから、ICT教育を始めとした安心・安全な教育環境を整えるとともに行事や教育活動の実施形態等の見直しを進め、教育内容の保障を行う必要がある。</li> <li>・児童生徒の障がいの重度・重複化、多様化に対応した指導支援、新学習指導要領に対応した一貫性のある教育課程を編成し、カリキュラムマネジメントの考え方を反映し、各教科等の指導内容やその関連性についても定期的な点検を行いつつ、目標設定と評価が一体となった教育実践を推進する必要がある。</li> <li>・自立と社会参加を目指す教育の充実に向け、卒業後の生活を見通したキャリア教育の推進のため、体験的な学習を効果的に取り入れていく必要がある。</li> <li>・肢体不自由児を含めたすべての児童生徒に対する教育内容を充実させるために、家庭や関係機関との連携強化に加えて、ケース会議等の充実を図り、教育内容が積み上がるように指導計画や引継ぎ等について検討を行うことや授業公開等による授業力の向上を目指すことで専門性の向上を図る必要がある。</li> <li>・児童生徒同士が高め合ったり、協力したりして自身の目標を達成することで自己肯定感が高まるような系統的・計画的・組織的な人権教育、命を大切にする教育、性に関する教育、対人関係能力の向上の取組を推進する。</li> </ul>
<p>(4) 現状と課題</p>	<p>学校運営等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和5年度の知的中学部の石薬師分校への移転を踏まえて、教職員が協力して円滑な移転を行うため、計画的に取組を進める必要がある。</li> <li>・令和5年度に鈴鹿亀山地域の肢体不自由のある児童生徒を受け入れるため、鈴鹿・亀山それぞれの市教育委員会と連携して、情報発信に努めると共に、受け入れに向けての体制づくりを行う必要がある。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症などに対応を含めた緊急時の対応のために、これまでの経験を活かして、さらに組織力を向上させる必要がある。また、大規模災害を想定した防災訓練・防災教育を実施し、教職員の対応力向上を推進する必要がある。さらに、危機管理に対する保護者との連携強化に努めると共に石薬師高校と連携が図られた危機管理マニュアルの整備が必要である。</li> <li>・個々の教職員が不祥事を他人事とせず、コンプライアンス意識を持ち続けながら教育活動にあたるために、信頼される学校であるための行動計画を作成し、取り組む必要がある。</li> <li>・地域の学校や関係機関等への研修や支援・情報発信が求められており、特別支援教育におけるセンター的機能の更なる充実を図る必要がある。令和5年度以降は、肢体不自由児教育に関してもセンター的な役割を果たしていく必要があり、その準備を進める必要がある。</li> <li>・保護者や石薬師分校、関係機関（鈴鹿病院等）との連携及び情報共有をし、地域とのつながりを強め、開かれた学校を意識した教育活動を展開・推進する必要がある。</li> <li>・年代や教職経験が様々な教職員が協力し助け合い、働きやすい職場づくりが求められている。また、業務内容の見直しを進め、総勤務時間の縮減に向けた取組を推進していく必要がある。</li> </ul>

### 3 中長期的な重点目標

教育活動	<p>(教育課程の整備)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和5年度の知的中学部の石薬師分校移転に向けて、本校小中学部から石薬師分校へと学びの系統性を視野に入れながら新たな教育課程を編成する。</li> <li>令和5年度の肢体不自由児教育関わる通学区域再編に伴い、重度重複障がい児を含めた肢体不自由教育について専門性や授業力の向上を図ると共に、安心安全な医療的ケアの実施のための体制を整えることで児童生徒の学びを保障する。</li> <li>新学習指導要領の本格実施に対応した学びの創造、ICT教育の推進に取り組む。</li> </ul> <p>(キャリア教育の推進)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域の社会資源を活用した職業教育の内容の見直しを進め、卒業後の生活や地域への社会参画を見通したキャリア教育を推進する。</li> <li>キャリア教育の視点を踏まえ、学習指導要領の教科目標や内容に対応するなど毎日の学習と関連付けた体験的な学習に取り組む。</li> </ul> <p>(命を大切にす教育の推進)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>児童生徒同士が高め合ったり、協力したりして自身の目標を達成することで自己肯定感が高まるような系統的・計画的・組織的な人権教育、命を大切にす教育、性に関する教育、対人関係能力の向上の取組を推進する。</li> </ul>
学校運営等	<p>(信頼される学校づくり)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>信頼される学校であるための行動計画に基づき、不祥事の根絶と県民からの信頼回復に向けた組織運営ができるよう、年間を通じた定期的な校内研修等に取り組む。</li> </ul> <p>(教職員の専門性の向上)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和5年度の肢体不自由児教育の通学区域再編に伴い、重度重複障がい児教育の更なる充実を図ると共に、安心安全な医療的ケアの実施ができるように校内体制の構築を行う。</li> </ul> <p>(センター的機能の充実)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>組織的な実践力・対応力を構築し、専門性や授業力向上のため、研修機会の充実を図る。また、その成果を地域の学校や関係機関等への研修や支援・情報発信することで還元し、特別支援教育におけるセンター的機能の充実を図る。</li> </ul> <p>(危機管理体制の強化)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>大規模災害を想定した防災訓練・防災教育を実施し、教職員の対応力向上を図る。また、危機管理に対する保護者との連携を推進することで、特別なニーズのある生徒に対する支援体制等を一層強化していく。</li> </ul> <p>(保護者や地域との連携)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>石薬師分校や関係機関(鈴鹿病院等)、保護者との連携や情報共有の推進、地域とのつながりを強化し、開かれた学校への展開を推進する。</li> </ul> <p>(働きやすい職場づくり)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>働きやすい職場づくりや総勤務時間の縮減や業務の偏りの解消のため、職場内で協力・応援体制がとれるよう、各分掌や委員会、学年集団が業務の精選に努める。その上で、生徒や保護者とのコミュニケーションを大切にし、信頼される学校を目指す。</li> <li>管理職がリーダーシップをとり、いじめや体罰を許さず、相談しやすい職場環境づくり、ハラスメントのない職場づくりに取り組む。</li> </ul>

### 1 本年度の行動計画と評価

#### (1) 教育活動

項目	取組内容・指標	結果	備考
○令和5年度の学校再編に向けた教育課程の整備	<p>○教育課程の整備</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>知的課程中学部(本校)と高等部(分校)の学びの系統性を視野に入れた整備の実施 検討会1回以上</li> <li>肢体不自由教育の教育課程の整備の実施 検討会 1回以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育課程検討委員会2回及び拡大主事会にて検討し、教育課程の整備を実施</li> </ul>	◎

<p>○系統的なキャリア教育の推進</p>	<p>○キャリア教育プログラムに基づいた授業の充実</p> <p><b>【活動指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新学習指導要領に対応したキャリア教育プログラムの点検と修正 年度内</li> <li>・専門家を招いてキャリア教育プログラム及びその活用についての検討 4回</li> <li>・新学習指導要領の対応と「杉の子キャリア教育プログラム」を活用した授業公開の実施 22回以上</li> </ul> <p><b>【成果指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリア教育プログラムの活用についての教員アンケートの満足度 85%以上</li> </ul> <p>○社会参加への準備（中学部）や、卒業後の生活を見据えた指導（高等部）の充実</p> <p><b>【活動指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・働くことの意義や知識技能を身につけることを目的とした校内実習やコロナウイルス感染拡大を考慮した現場実習等の実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>中学部校内実習 1回</li> <li>高等部現場実習 2年生1回、3年生2～3回</li> </ul> </li> <li>石薬師分校見学会、分校体験会の実施 各1回</li> </ul> <p><b>【成果指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・希望する進路の実現（高等部） 100%</li> </ul> <p>○進路実現に向け、保護者と連携した取組の推進</p> <p><b>【活動指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進路相談会の実施 必要に応じて</li> <li>・進路希望アンケートの実施 1回</li> <li>・進路だよりによる情報提供 年4回以上</li> </ul> <p><b>【成果指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進路指導についての保護者アンケートの満足度 80%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1回実施</li> <li>・4回実施</li> <li>・26回実施</li> <li>・満足度 83%</li> <li>・中学部1回実施</li> <li>・高等部2年生1回、3年生2回実施</li> <li>・見学会：小6、中1・2 各1回実施</li> <li>・体験会：中3 1回実施</li> <li>・分校文化祭への参加1回</li> <li>・100%</li> <li>・進路懇談会 小学部3回実施 中学部5回実施 高等部2回実施</li> <li>・1回実施</li> <li>・4回発行</li> <li>・満足度100%</li> </ul>	
<p>○命を大切にす る教育の推進</p>	<p>○自分を大切にし、お互いを認め合い、適切な人間関係を形成する取組の推進</p> <p><b>【活動指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・杉の子人権週間での取組 年3回</li> <li>・杉の子ネットを活用した教育実践の共有 年3回</li> <li>・いじめ防止強化月間における、児童生徒会による掲示物の作成と、いじめ防止の啓発 4・11月</li> <li>・いじめアンケートの実施と実態把握 年3回</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年3回</li> <li>・年3回実施</li> <li>・4・11月実施</li> <li>・年3回実施</li> </ul>	

	・児童生徒会でいじめ防止の動画メッセージを作成し、全児童生徒が視聴 5シリーズ	・5シリーズ	
改善課題			
<p>○教育課程の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・知的教育部門における教育課程について、小・中・高の学びの連続性・系統性について整備した。また、肢体不自由教育部門における教育課程について、令和5年度に向けて「準ずる課程」の整備をした。</li> <li>・観点別評価についての研修会を開催し、観点別評価への理解を深めるとともに、指導案に記載し、授業研修を行った。今後は、個別の指導計画等への反映について整理を進める必要がある。</li> <li>・学習指導要領の全領域の指導が行えるよう年間計画の整備並びに教育課程の整理が必要である。</li> <li>・知的教育部門および肢体不自由教育部門について、引き続き、子どもの実態に合わせたカリキュラム・マネジメントに取り組む必要がある。</li> </ul> <p>○系統的なキャリア教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学部での校内実習、高等部での現場実習をとおして、働くことや地域で過ごすイメージを持たせることができた。</li> <li>・中学部の分校見学会を実施したことで、中学部移転後の分校での過ごし方がわかり、見通しを持たせることができた。</li> <li>・知的教育部門の進路指導や保護者対象の進路研修会等について、分校と連携を図りながら取組を進める必要がある。</li> <li>・系統的なキャリア教育プログラムを意識した授業実践を重ねるとともに、実践の振り返りを行う。</li> </ul> <p>○命を大切にす教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・差別発言を受けて人権教育推進計画および年間計画の見直しを行い、人権学習に取り組んだ。児童生徒が外国人の人権について知り、自分にできることを考える機会とした。また、学習内容を共有フォルダに保存することで、取組の共有化ができた。本校の人権教育に関する課題として整理し、来年度も継続して取り組む。</li> <li>・児童生徒会を中心に、いじめ撲滅運動に取り組んだ。</li> <li>・次年度は小学部知的教育部門においてはロールモデルが不在になる。登下校時のスクールバス内における中学部や高等部の知的教育部門生徒との関りなど様々な機会を捉えて、自分を大切にし、お互いを認め合い、適切な人間関係を形成する取組を推進する。</li> </ul>			

## (2) 学校運営等

項目	取組内容・指標	結果	備考
○信頼される学校づくり	○本校の取組についての情報発信を行う。 【活動指標】 ・クラスだより・学部だより・学校だより、ホームページ等様々な媒体を活用し、学校の取組を発信する ホームページでの情報発信 各学部月1回以上	・全学部平均で月2回以上	
	○コンプライアンスの遵守による信頼される学校づくりの取組 【活動指標】 ・不祥事防止研修プログラムとコンプライアンスミーティングの実施 年14回	・15回実施	◎
○教職員の専門性の向上	○児童生徒が主体的に活動できるための授業づくりや支援についての取組 【活動指標】		

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学部研修、教育部門別研修会等の実施 7回</li> <li>・専門家を招聘したケース検討会の実施 4回</li> <li>・夏季公開講座の実施 1回</li> <li>・キャリア教育プログラムに基づく授業公開(教員相互による授業見学と研究協議)の実施 22回以上(再掲)</li> <li>【成果指標】</li> <li>・学部別研修アンケート満足度 80%以上</li> <li>・ケース検討会アンケート満足度 80%以上</li> <li>・夏季公開講座参加者アンケート満足度 80%以上</li> <li>・授業公開への参加率 100%</li> </ul> <p>○ICT教育の充実に向けた取組の推進</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ギガスクールサポーターによる教員向けの研修会の実施 1回</li> </ul> <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員のICT活用指導力等の実態調査において、「できる・ややできる」の割合 昨年度比5%増</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・7回実施</li> <li>・(再掲につき記載省略)</li> <li>・(再掲につき記載省略)</li> <li>・(再掲につき記載省略)</li> <li>・中学部 満足度 100%</li> <li>・小学部 満足度 100%</li> <li>・中学部 満足度 94.1%</li> <li>・参加者 満足度 96.3%</li> <li>・参加率100%</li> </ul> <p>・1回実施</p> <p>・4.2%増</p>	
○センター的機能の充実	<p>○地域の特別支援教育についての理解啓発および専門性向上のための取組</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・夏季公開講座の実施 1回(再掲)</li> <li>・参加者のニーズに合わせた体験研修の実施 1回</li> <li>・地域の保幼小中高等への教育相談の実施 必要に応じて</li> <li>・かがやき特別支援学校と連携した地域支援(三次支援)の実施 必要に応じて</li> </ul> <p>【成果指数】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・夏季公開講座参加者アンケート満足度 80%以上(再掲)</li> <li>・体験研修参加者のニーズに対する満足度 80%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(再掲につき記載省略)</li> <li>・2回実施</li> <li>・27回実施</li> <li>・8回実施</li> <li>・(再掲につき記載省略)</li> <li>・満足度100%</li> </ul>	
○危機管理体制の強化	<p>○不審者や医療を要する緊急時に適切に対応できるよう、研修会や訓練の実施</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・不審者対応訓練の実施 年1回</li> <li>・救急法の実施 年1回</li> <li>・医療的ケア児の緊急対応訓練 一人につき1回以上</li> </ul> <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各訓練の職員満足度 80%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年1回実施</li> <li>・年1回実施</li> <li>・一人につき1回以上実施</li> <li>・不審者対応訓練 満足度100%</li> <li>・救急法 満足度</li> </ul>	

	<p>○教職員の防災意識の向上と、火災・地震等を想定した訓練の実施</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒対象の外部講師による防災学習の実施 年1回</li> <li>・避難訓練の実施 年3回</li> <li>・教職員対象の防災危機管理等の研修 年1回</li> <li>・防災等の等の取組について、ホームページへの掲載及びプリントによる保護者への情報提供 年3回</li> </ul> <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・防災危機管理等研修の職員満足度 80%以上</li> </ul>	<p>96.5%</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療的ケア訓練満足度100%</li> </ul>	
○保護者や地域との連携	<p>○スクールバスの乗降場所としての協力店舗「杉の子バスの店」をととした地域の商業施設との連携</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校ホームページやPTA通信などで「杉の子バスの店」を紹介 1回以上</li> </ul> <p>○鈴鹿病院との感染症対策における情報共有及び連携の推進</p> <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症に係る児童生徒及等欠席者の情報共有 100%</li> </ul> <p>○福祉事業所との連携の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉事業所との懇談会 年1回</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・起震車体験1回実施</li> <li>・年3回実施</li> <li>・1回実施</li> <li>・防災だより6回発行</li> <li>・満足度97.5%</li> <li>・実施率100%</li> <li>・毎日実施</li> <li>・ホームページ5月に更新</li> <li>・PTA通信に2回掲載</li> <li>・情報共有100%</li> <li>・研修会として1回実施</li> </ul>	
○働きやすい職場づくり	<p>○働き方改革に基づく働きやすい職場づくりの取組</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職員間の円滑なコミュニケーションのためのオフサイトミーティングの開催 年1回</li> <li>・設定した日の定時に退校できた職員の割合 95%以上</li> <li>・放課後に開催して60分以内に終了した会議の割合 85%以上</li> <li>・定時退校日の設定 1回/月</li> <li>・ノー会議デーの設定 25日/年</li> <li>・時間外労働の「上限時間」の遵守 100%</li> </ul> <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職員アンケートによる働きやすい職場率 80%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年1回実施</li> <li>・98.0% (669/683人)</li> <li>・91.8% (134/146回)</li> <li>・1回/月 (13回)</li> <li>・27日/年</li> <li>・100%</li> <li>・84%</li> </ul>	

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年 360 時間を超える時間外労働者数 0 人</li> <li>・月 45 時間を超える時間外労働者の延べ人数 0 人</li> <li>・一人当たりの月平均時間外労働 30 時間以下</li> <li>・一人当たりの年次休暇取得平均日数 12 日以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 0 人</li> <li>・ 3 人</li> <li>・ 6.1 時間</li> <li>・ 15 日 5 時間</li> </ul>	
--	--	---	--

### 改善課題

#### ○教職員の専門性の向上、センター的機能の充実

- ・外部講師による研修会やセラピスト支援の充実に取り組み、教職員のスキルアップを図った。
- ・令和5年度の校区再編を前に、肢体不自由児の地域支援や医療的ケア児についての相談件数が増えており、コーディネーターや医療的ケア委員長による地域支援が充実した。
- ・引き続き、知的教育部門の研修の充実を図るとともに、重度重複障がい児を含めた肢体不自由教育についての専門性や授業力の向上、安心安全な医療的ケア実施のための体制を整えるとともに、地域におけるセンター的機能の充実を図る必要がある。

#### ○危機管理体制の強化

- ・コロナ禍により遠のいていた起震車体験を実施することができた。
- ・給食の異物混入時等の対応食と防災食のローリングストック法による整備を行った。今後、保存食の食数を増やすことを検討する。
- ・教職員数が大幅に減少するなかでの危機管理体制の再構築、重度重複障がい児を含めた肢体不自由児や医療的ケア児の緊急対応の見直しなどに取り組む必要がある。

#### ○保護者や地域との連携

- ・新型コロナウイルスの5類への引き下げとともに、学校における感染対策の方針変更に対応しながら、保護者や地域との新たな連携のあり方を検討する必要がある。スクールボランティアや校区探検の取組を推進したい。

#### ○働きやすい職場づくり、信頼される学校づくり

- ・月45時間を超える時間外労働者は延べ3人だった。次年度は教職員数が大幅に減少することから、業務過多が想定される。一層の業務精選とワークシェアに取り組む必要がある。
- ・知的教育部門と肢体不自由教育部門の職員室は別になるが、風通しのよい職場環境づくりが求められる。
- ・ハラスメントや不祥事を根絶することで、学校への信頼向上に努める必要がある。

## 5 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鈴鹿亀山地域の特別支援学校として、子どもたちの豊かな学びを保障するために、地域と協働した学校づくりをすすめる。</li> <li>・児童生徒及び保護者に寄り添い、信頼される学校づくりをすすめる。</li> </ul>
---------------------	--

## 6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・知的教育部門および肢体不自由教育部門について、子どもの実態に合わせたカリキュラム・マネジメントに取り組んでいく必要がある。</li> <li>・知的教育部門の進路指導や保護者対象の進路研修会等について、分校と連携を図りながら取り組んでいく必要がある。</li> <li>・子どもたちの発達段階に合わせた、人権教育・命を大切にす教育に取り組んでいく必要がある。</li> </ul>
学校運営についての改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スクールボランティアの募集再開や、地元敬老会や地域の方との関わりなど、地域連携の再構築に取り組む必要がある。</li> <li>・ノー会議デーや定時退校日を意識した学校運営、ワークシェアの推進、本校再編委員会を中心にした業務精選や課題解決などに取り組んでいく必要がある。</li> <li>・教職員が働きやすいと思える職場づくりとなるよう、積極的な対話の機会を設ける。</li> </ul>